

社会情勢の変化 / 国や県の動向

<社会情勢の変化>

■ライフスタイルの多様化、新しい生活様式  
 ライフスタイルや価値観が多様化し、生涯を通じて健康で生きがいのある人生を送るため、今後は、市民それぞれがそれぞれのニーズに応えた多様な学習機会を提供していく必要があります。また、感染症予防などに配慮した「新しい生活様式」の普及が見込まれることから、そうした変化に対応した新たな学びのあり方や環境づくりを検討していくことが必要です。

■持続可能な社会への移行  
 SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向け、17のゴールのうち、国際目標4では、「すべての人に包括かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する」とあり、今後はこれを達成するため、生涯学習に関する活動を広げていくことが必要です。

■少子高齢化の進行、人生100年時代の到来  
 出生率の低下や平均寿命の延伸などにより、少子高齢化が急速に進展しており、市においても65歳以上人口の割合が増加しています。今後日本では、さらなる健康長寿社会を迎えることが想定されます。このようにな人生100年時代において、若い人生をより充実させるため、子どもから高齢者までライフステージごとに、生涯にわたる多様な学習の機会が重要となります。

■デジタル社会の進展  
 IoT（Internet of Things：様々な「モノ（物）」がインターネットに接続され、情報交換することにより相互に制御する仕組み）など、新しい概念が登場し、今後の社会生活に大きな変化をもたらすことが予測されます。このような新しい技術を活用することで、学び方は多様化し、地理的制約や時間的制約が少なくなることが期待できます。

■国際化の進展  
 国籍にかかわらず誰でも学ぶ機会を提供することは、本人の生活の豊かさや充実につながるだけでなく、その学びを地域活動などへ生かしていくことが期待されます。また、国際交流などとおして、相互に学び合う機会の創出も重要です。

<国や県の動向>

●第3期教育振興基本計画では、長寿化が進む中で人生100年時代を見据えた生涯学習の推進などが位置づけられています。

●平成30年12月、文部科学省の中央教育審議会において、今後の社会教育を基盤とした人づくり・つながりづくり・地域づくりという理念が示されました。

●平成31年3月には、「障がい者の生涯学習の推進方策について」誰もが、障がいにかかわらず共に学び、生きる共生社会を目指して、「」が文部科学省の有識者会議によりまとめられ、共生社会の実現をうたっています。

●平成30年度から令和4年度を計画期間とした「第2期愛知県生涯学習推進計画」を策定し、「自己を高め、地域とつながり、未来を築く生涯学習社会」を基本理念として掲げるとともに、5つの基本的な柱をもとに生涯学習施策を展開しています。

市の状況

<取組の状況>

■学習内容・学習機会の充実  
 学習内容、指導方法等の充実や学習成果を評価する仕組みづくりを進めることにより、市民のニーズに応える講座の開催に取り組んでまいりました。ライフステージに応じた学習機会の提供や地域に根差した特色ある生涯学習の推進など、生涯学習プログラムの充実を図ることで、社会情勢の変化に伴う講座内容の充実にも努めました。

■積極的な情報提供と情報交流  
 情報の収集・提供の充実を図るとともに、インターネットを活用した情報提供を行いました。生涯学習相談窓口の充実を図ることで、相談体制を推進しました。

■生涯学習指導者の発掘と活用  
 生涯学習活動における一層の進行を図るため、指導者・リーダーの育成と活用や人材バンクシステムの導入に取り組んでまいりました。近年において、講座を受講した人が人材バンクに登録した実績はない状況です。

■学習環境の整備  
 学びたい人が気軽に集い、交流することができ魅力のある施設をめぐらした複合施設の整備に加え、既存施設の有効活用などに努めてまいりました。年齢、性別、障がいの有無などに関係なく、いつでも誰でも学習活動が行えるよう取組を進めてまいりました。

■市民との協働  
 市民に主体的な参画を意識した市民の提案・企画の募集などを行うことで、市民による生涯学習の取組を進めてまいりました。企業や大学、関連団体との連携を図ることで、総合的な推進体制の整備を図りました。

<アンケート結果の概要>

■生涯学習の状況について  
 この1年間で生涯学習を行った人は、70.9%となっています。行った場所や形態に関しては「情報端末やインターネット」、「自宅での学習活動（書籍など）」、「職場の教育、研修など」が多く、気軽に、身近にできる場所や形態が好まれる傾向であることがうかがえます。施設における学習活動だけではなく、自身の状況に合わせて学習できる取組や環境の整備が求められます。

■生涯学習に対する今後の意向について  
 今後何らかの生涯学習を行ってみたいと考えている人は、86.8%となっており、この1年間で生涯学習を行った人よりも約16%上回っています。今後やってみてほしいと考えている人が、生涯学習に取り組めるきっかけづくりや働きかけを行っていく必要があります。

■生涯学習の成果としては、「図書館学習交流プラザ（サンライズ）」が多く、市民が利用しやすいよう環境の整備や内容の充実を図ることが求められます。

■生涯学習の成果について  
 生涯学習で身に付けた知識や技能などを自分以外に生かしたい人は、6割程度存在しており、生かしたいと考えている人は、20~29歳で最も高く、若い年齢層で意識が強い傾向にあります。他の人に生かす機会があることで自身の活躍の場が広がり、生きがいとなります。また、指導するといふ人材の活用や確保にもつながることを踏まえた取組や仕組みを考えていくことが必要です。

■生涯学習の振興について  
 今後の生涯学習を活発にするため、「生涯学習関連施設におけるサービスの充実」「受講しやすい多様なジャンルの学習講座」「生涯学習を始める人へのきっかけづくりの充実」が求められています。

課題 / 今後の方向性（案）

<課題>

1. 気軽に生涯学習をはじめられる、身近に学習に取り組めるきっかけづくりや働きかけが必要だ。
2. ライフスタイルや市民のニーズに応じた多様な学習機会、学習内容の充実を図ることが必要だ。
3. 自身の学びを地域や他者に生かすための取組の展開や市民の生涯学習活動をより充実させるための人材の発掘や育成が必要だ。
4. 気軽にいつでも、誰でも学習活動を行えるよう学習環境の整備や既存施設の積極的な活用が必要だ。

<今後の方向性>

- (1) 学びを始める人へのきっかけづくり → 課題1
- (2) 学びを深める人への機会や内容の充実 → 課題2
- (3) 学びの成果の活用と人材の確保・育成 → 課題3
- (4) 学びを支える基盤の整備 → 課題4